



## 沿革

本港は愛媛県東部に位置し、東港、西港、中央、壬生川及び河原津の5地区よりなっている。

(東港地区)  
東港地区は元新居浜港の一部であったが、新居浜本港と隣接水産品を中心とする住友系企業と組みを同じくして発展してきた。昭和39年愛媛県の東予地区が新産業都市に指定されたことに伴い東予新産業都市計画が策定され、この計画に基づき港湾計画を再検討した結果、東予東港地区、壬生川地区一体をなす東予新居浜地区として東予港の港湾計画に編入され、昭和44年10月より限管理東予港の港湾区域となった。

(西条地区)  
西条地区は旧西条港であり、その起源は江戸時代初期藩主による河川港築にさかのぼる。当時から付近一帯に広大な干潟があり、水路水深維持は困難をきわめた。しかし町勢の発展に伴い入港船舶、取扱貨物量が増大し、昭和9年4月に指定港湾となり同時に修築工事に着手、昭和11年に完成した。第2次大戦後に港湾更新期があったが、経路復興とともに再び港湾改修の声があり、昭和23年度より整備が進められ、昭和39年に西条市が東予新産業都市の指定を受けるとともに、同年4月西条港が東予港(西条地区)として重要港湾の指定を受け、この中心地区として整備が進められている。

(壬生川、中央、河原津地区)  
壬生川、中央、河原津地区は旧壬生川港であり、江戸時代初期開港と同時に築かれ、防衛の拠点及び年貢米積出港として利用された。その後大正3年に一部港湾拡張がなされたが、本格的な港湾整備は、昭和8年現在の大正助産株式会社の上場設立にともなわれ港勢は著しく進展した。昭和39年東予市が東予新産業都市の指定を受けるとともに、同年4月壬生川港が東予港(壬生川地区)として重要港湾の指定を受け、以来この地区の整備が進められている。

## みなとの変遷



## 港湾計画の概要

本港の背後には、新産業都市の指定を受けて以来愛媛県の工業活動の核として重要な地位を占めており、東港市に立脚する工業の原材料及び製品の輸出入や、愛媛県と東予地区とを結ぶフェリーによる人、物の流動を中心に、産業活動及び地域の発展を支える拠点港として、本港は重要な役割を果たしている。  
このような現状に対応するため、  
1) 背後の産業・消費活動の拡大に対応するため、内外貨物機能の強化を推進する。  
2) 陸上交通体系と連携した海上輸送機能の強化に対応するとともに、環境負荷の低減に資するため、フェリー機能の強化を図る。  
3) 港域と背後地との関係の強化を図り、港湾交通体系の充実を図る。  
4) 大規模地震発生時における避難、緊急物資運送等の対策を推進するとともに、震災時における経済活動を支える物資の確保を図る。  
5) 港域における産業・消費活動の促進を図るため、市民が関与し得る観光水産物の振興及び地域住民等の交流の促進を図る。  
6) 港域に隣接した自然環境の保全とともに、自然と人が共生する良好な港湾環境の形成を図る。  
7) 港域区域における船舶の適切な利用を図るため、既設の係留施設の有効利用や新たな係留施設の整備を行い、船舶の適切な収容を図る。  
8) 多様な機能が相対し、連携する質の高い空間を形成するため、陸域約1,200haと水域約3,000haの広大な港湾空間を、次のように利用する。  
① 東港地区、西条地区(東部、中央部)、壬生川地区(中部、東部)は、物流関連・生産ゾーンとする。  
② 壬生川地区(東部)は、観光関連・交流拠点ゾーンとする。  
③ 西条地区(北西部)、壬生川地区(北西部)は船舶大規模開港ゾーンとする。  
④ 西条地区(北部及び南西部)、壬生川地区(北部)、河原津地区(東部)は緑地、都市リノベーションゾーンとする。  
以上の方針のもとに、港湾の整備を進めている。

現行 港湾計画		計画の経緯	
港域の能力	水 質 500万トン 積 積 13万トン 13万トン(700万トン)	計画年度	計画年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和25年度	昭和25年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和26年度	昭和26年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和27年度	昭和27年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和28年度	昭和28年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和29年度	昭和29年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和30年度	昭和30年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和31年度	昭和31年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和32年度	昭和32年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和33年度	昭和33年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和34年度	昭和34年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和35年度	昭和35年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和36年度	昭和36年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和37年度	昭和37年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和38年度	昭和38年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和39年度	昭和39年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和40年度	昭和40年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和41年度	昭和41年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和42年度	昭和42年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和43年度	昭和43年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和44年度	昭和44年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和45年度	昭和45年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和46年度	昭和46年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和47年度	昭和47年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和48年度	昭和48年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和49年度	昭和49年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和50年度	昭和50年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和51年度	昭和51年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和52年度	昭和52年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和53年度	昭和53年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和54年度	昭和54年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和55年度	昭和55年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和56年度	昭和56年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和57年度	昭和57年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和58年度	昭和58年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和59年度	昭和59年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和60年度	昭和60年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和61年度	昭和61年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和62年度	昭和62年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和63年度	昭和63年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和64年度	昭和64年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和65年度	昭和65年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和66年度	昭和66年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和67年度	昭和67年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和68年度	昭和68年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和69年度	昭和69年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和70年度	昭和70年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和71年度	昭和71年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和72年度	昭和72年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和73年度	昭和73年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和74年度	昭和74年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和75年度	昭和75年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和76年度	昭和76年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和77年度	昭和77年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和78年度	昭和78年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和79年度	昭和79年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和80年度	昭和80年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和81年度	昭和81年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和82年度	昭和82年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和83年度	昭和83年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和84年度	昭和84年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和85年度	昭和85年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和86年度	昭和86年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和87年度	昭和87年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和88年度	昭和88年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和89年度	昭和89年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和90年度	昭和90年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和91年度	昭和91年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和92年度	昭和92年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和93年度	昭和93年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和94年度	昭和94年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和95年度	昭和95年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和96年度	昭和96年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和97年度	昭和97年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和98年度	昭和98年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和99年度	昭和99年度
入港船舶数(船舶)	約1,000隻	昭和100年度	昭和100年度

## 港湾施設

地区名	施設名	延長(m)	管理者	構造
東港	西条防波堤	1,500	住友化学	橋式
	東条防波堤	1,000	愛媛県	橋式
西条	東条防波堤	237	*	橋式
	防波堤	330	*	*
壬生川	西条防波堤	1,900	*	橋式
	防波堤	1,900	*	橋式

地区名	施設名	水深(m)	延長(m)	幅員(m)	備考
東港	東条	-12.0	1,200	200	
	西条	-5.5	1,600	100	
中央	中央	-7.5	2,600	100	
	広正	-1.0	400	15	
壬生川	壬生川	-5.5	800	100	
	北条	-5.5	800	100	

地区名	施設名	水深(m)	泊地面積(千㎡)	備考
東港	東条	-5.5	59	
	西条	-5.5	300	
西条	東条	-1.0	22	
	西条	-5.5	64	
西条	西条	-5.5	115	
	西条	-5.5	114	
中央	中央	-7.5	126	
	中央	-5.5	10	
壬生川	西条	-5.5	50	
	北条	-5.5	82	

## 船舶施設及び保管施設

地区名	施設名	管理者	面積(㎡)	構造	主要取扱貨物	備考
東港	東条	東条	13,694	木造	砂、砂利、スラグ	
	西条	西条	18,642	*	*	
西条	西条	西条	15,871	アスファルト舗装	鉄鋼品、資材	
	西条	西条	7,275	アスファルト舗装	鉄鋼品、資材	
中央	中央	中央	3,825	コンクリート舗装	米穀類、金属品	
	中央	中央	2,767	アスファルト舗装	砂、砂利、資材	
新中央	新中央	新中央	1,818	コンクリート舗装	砂、砂利、資材	
	北条	北条	11,073	*	砂、砂利、スラグ	
西条	西条	西条	6,500	*	砂、砂利、資材	
	西条	西条	4,747	*	*	
壬生川	西条	西条	3,792	*	*	
	西条	西条	8,225	木造	資材	
西条	西条	西条	1,000	アスファルト舗装	*	
	西条	西条	1,000	アスファルト舗装	*	

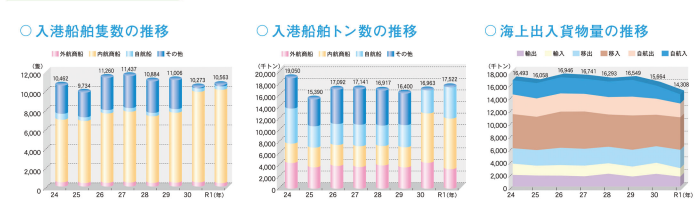
地区名	施設名	管理者	面積(㎡)	構造	主要取扱貨物	備考
東港	東条	東条	1,583	1	鉄骨造	石炭
	西条	西条	1,225	1	鉄骨造	石油
西条	西条	西条	1,511	1	鉄骨造	石油
	西条	西条	1,716	1	鉄骨造	石油
中央	中央	中央	4,533	3	鉄骨造	資材
	中央	中央	1,716	1	鉄骨造	資材
壬生川	西条	西条	609	1	木造	セメント
	西条	西条	692	1	木造	セメント

## 自然状況

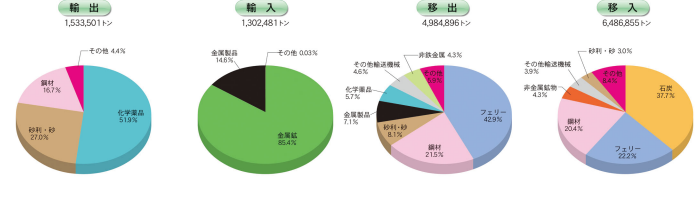
(1) 地質  
本港背山には、東西に中央構造線が走り、それを境に地質が大きく異なっている。山間部にかけては、緑色片麻岩、黒色片麻岩が分布し、平野部はすべて砂礫層に厚さ15~20mの粘土またはシルト層が覆われている。湧水と湧水層が互換となっているためかなり緩衝地帯下層が存在している。  
(2) 風向・風速  
年間を通じてS~S-W方向の風が dominant している。風速10m/sec以上の瞬間の出現率は1%程度であり、年間を通じてS-W方向が dominant している。  
(3) 潮位  
期望平均潮位 C.D.L(+3.800メートル)  
期望平均干潮位 C.D.L(+0.170メートル)  
平均潮位 C.D.L(+2.000メートル)  
過去の最高潮位 C.D.L(+4.590メートル(昭和29年9月23日))  
過去の最低潮位 C.D.L(-0.300メートル(昭和17年1月11日))  
東京湾中等潮位 C.D.L(+1.880メートル)

(4) 潮流  
上げ潮時に東流、下げ潮時に西流が生じる。W方向はほど大きな傾斜があるが、最大10ノット程度で比較的緩やかである。

## 港勢



## 取扱貨物の品目構成 令和元年(2019)



## けい留施設

地区名	施設名	水深(m)	延長(m)	幅員(m)	好乗船舶(隻)
東港	東条	-4.5	120	2	700
	西条	-5.5	140	2	2,000
中央	東条	-7.5	130	1	5,000
	西条	-5.5	450	6	2,000
西条	第1号岸壁	-5.5	270	3	2,000
	中央岸壁	-7.5	260	1	30,000
新中央	新中央岸壁	-5.0	110	1	3,000
	北条岸壁	-5.5	270	3	2,000
壬生川	外条岸壁	-5.0	140	2	1,000
	外条岸壁	-5.0	140	2	1,000

## 大型船けい留施設(専用)

地区名	施設名	水深(m)	延長(m)	幅員(m)	好乗船舶(隻)
東港	住友重機工業・住友重機機庫	-5.5	336	2	9,450
	住友重機工業・住友重機機庫	-6.0	5	2	2,000
中央	住友重機工業・住友重機機庫	-5.5	34	1	2,000
	住友重機工業・住友重機機庫	-5.5	105	2	1,000
西条	住友重機工業・住友重機機庫	-12.0	170	1	30,000
	住友重機工業・住友重機機庫	-4.5	140	2	1,000
西条	住友重機工業・住友重機機庫	-4.5	20	1	1,000
	住友重機工業・住友重機機庫	-4.5	20	1	2,000
中央	住友重機工業・住友重機機庫	-4.5	30	1	2,000
	住友重機工業・住友重機機庫	-5.5	110	1	2,000
壬生川	住友重機工業・住友重機機庫	-5.5	150	1	2,000
	住友重機工業・住友重機機庫	-5.5	120	2	3,500
西条	住友重機工業・住友重機機庫	-5.0	40	1	2,000
	住友重機工業・住友重機機庫	-5.5	138	1	2,000
西条	住友重機工業・住友重機機庫	-5.5	140	1	2,000
	住友重機工業・住友重機機庫	-5.5	90	1	2,000

## 上屋

地区名	施設名	管理者	棟数	面積(㎡)	構造	主要取扱貨物	備考
壬生川	第1号上屋	西条市	1	1,445	鉄骨スチール	セメント	外洋埠頭
	西条上屋	日本郵船	1	4,184	鉄骨造	外洋埠頭	

## 臨港交通施設

地区名	施設名	延長(m)	幅員(m)	構造
東港	東条	1,152	130	コンクリート
	西条	783	6.5	アスファルト
西条	西条	86	6.5	アスファルト
	西条	1,055	6.5	アスファルト
中央	中央	1,550	100	コンクリート
	中央	2,531	120	アスファルト
壬生川	西条	1,024	90	コンクリート
	西条	1,024	90	コンクリート

## その他施設

地区名
-----